第2章
南房総市の環境の現状と課題等

この章では、南房総市の環境の現状と、現在の環境が抱える課題等を把握するため、既存資料等について整理を行うとともに、市民・事業者を対象にアンケート調査を実施し、これらの結果について整理しています。

第２章

２－１　環境基礎調査結果

１）環境全般について

⑴　人口・世帯数

人口は、平成10年の約48,000人から平成20年の約43,000人へと減少傾向で推移しています。一方世帯数は、平成10年の約15,500世帯から平成20年の約15,800世帯へと増加傾向で推移しています。これらより、世帯当たり人員は減少していることがわかります（図２－１）。

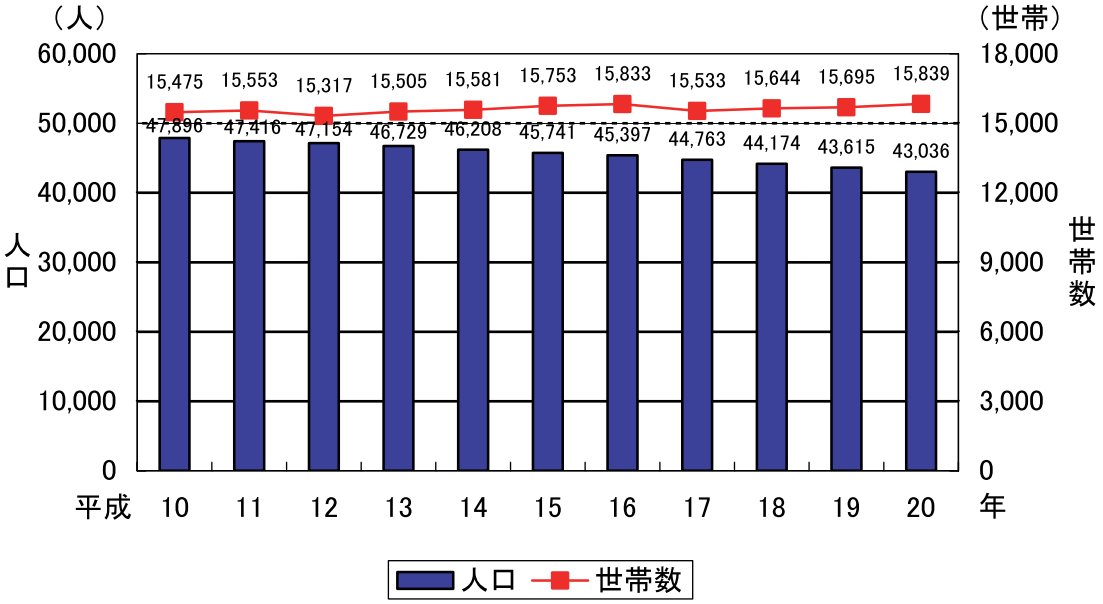

図２－１　南房総市の人口・世帯数（各年10月１日）

出典：千葉県統計課「千葉県毎月常住人口調査」

年齢構成を見ると、昭和55年当時は65歳以上人口が16.0%でしたが、平成17年には33.7%と倍以上になっており、高齢化が進んでいることがわかります（図２－２）。

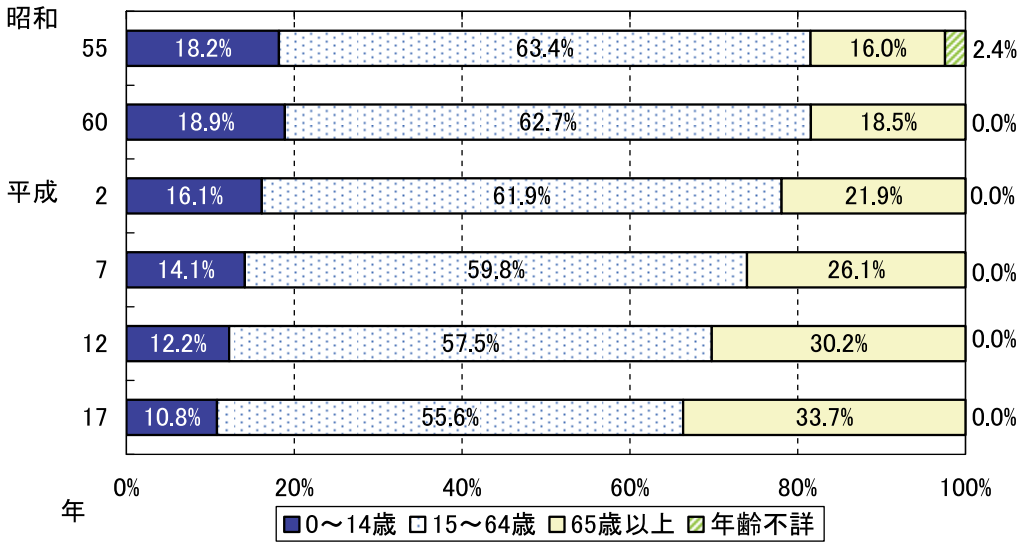

図２－２　南房総市の年齢別人口割合の推移（各年10月１日）

出典：総務省統計局「国勢調査報告」

⑵　産業

従業者数について見ると、第３次産業が57.5%を占めており、卸売・小売業や飲食店・宿泊業などを中心にサービス業に従事する人が多くなっています（図 2−3）。

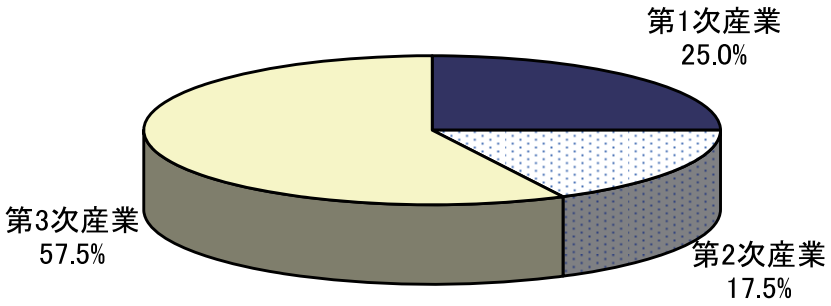

図２−３　南房総市の産業別従業者数の割合（平成17年）

出典：総務省統計局「国勢調査報告」

農業産出額は減少傾向にあるものの、平成18年は約158億円で、県内６位となっています。中でも花きは県内１位と盛んです（図２−４）。

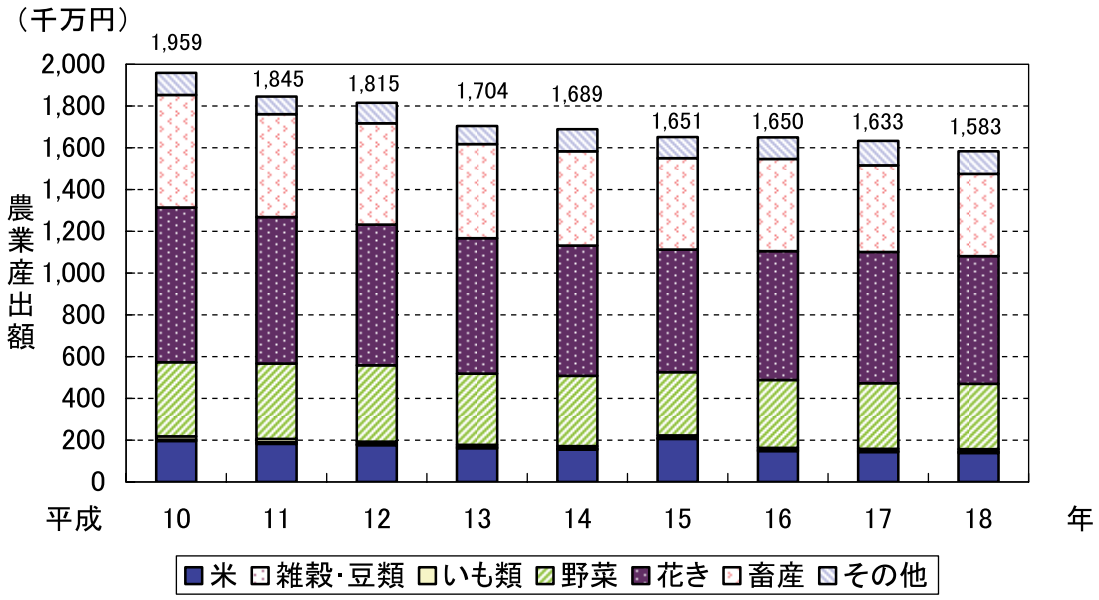

図２−４　南房総市の主な農業産出額の推移

出典：関東農政局千葉統計・情報センター「千葉県生産農業所得統計」

市内の漁獲量は約9,000tで、県全体の５％を占めています（図２−５）。

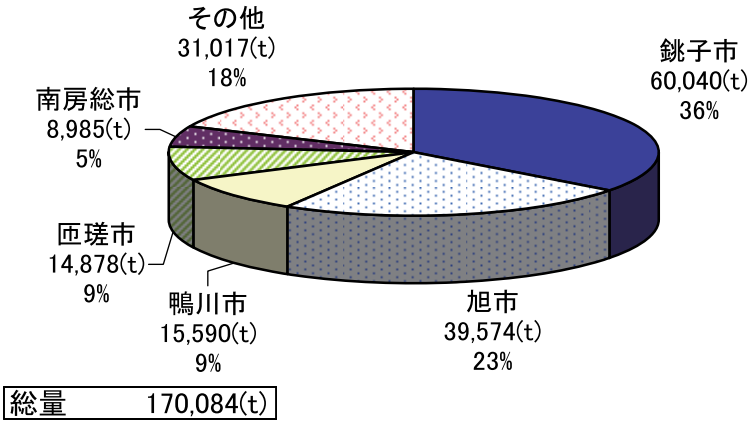

図２−５　千葉県内の市町村別漁獲量（平成19年）

出典：関東農政局千葉統計・情報センター「千葉農林水産統計年報」

注）九十九里町については秘匿値（Ｘ）となっているため、図２−５では「その他」に含まれているが、H17、H18の実績値から南房総市より漁獲量が多いと見なしている。

平成20年の観光入り込み客数は約506万人で、県内６位となっています。分類別では産業観光が多く、露地花摘みや道の駅、海水浴場への入り込み客が多くなっています（図２−６、表２−１）。

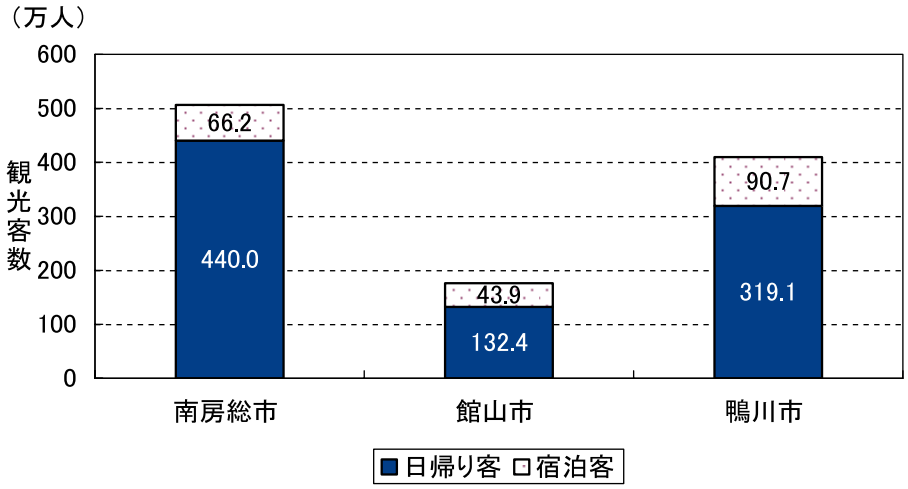

図２−６　分類（客種）別の観光入り込み状況（平成20年）

出典：千葉県商工労働部観光課「観光入込調査概要」

表２−１　主な観光・レクリエーション施設等への観光入り込み状況（南房総市）

（単位：万人）

観光・レクリエーション施設、行・祭事及びイベント名	分　類	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
露地花摘み（白浜、千倉、和田）	観光農林業	66	66	66	75	75
道の駅とみうら（枇杷倶楽部）	その他産業観光施設	51	59	61	67	68
道の駅富楽里とみやま	その他産業観光施設	75	80	41	46	49
道の駅ちくら潮風王国	その他産業観光施設	47	47	49	48	48
海水浴場（11箇所）	海水浴場	34	36	32	34	34

出典：千葉県商工労働部観光課「観光入込調査概要」

市内のJR各駅の１日平均乗降客数は毎年減少している一方で、一人当たりの自動車台数及び高速バス利用者数はいずれも増加傾向にあります（図２−７〜図２−10）。

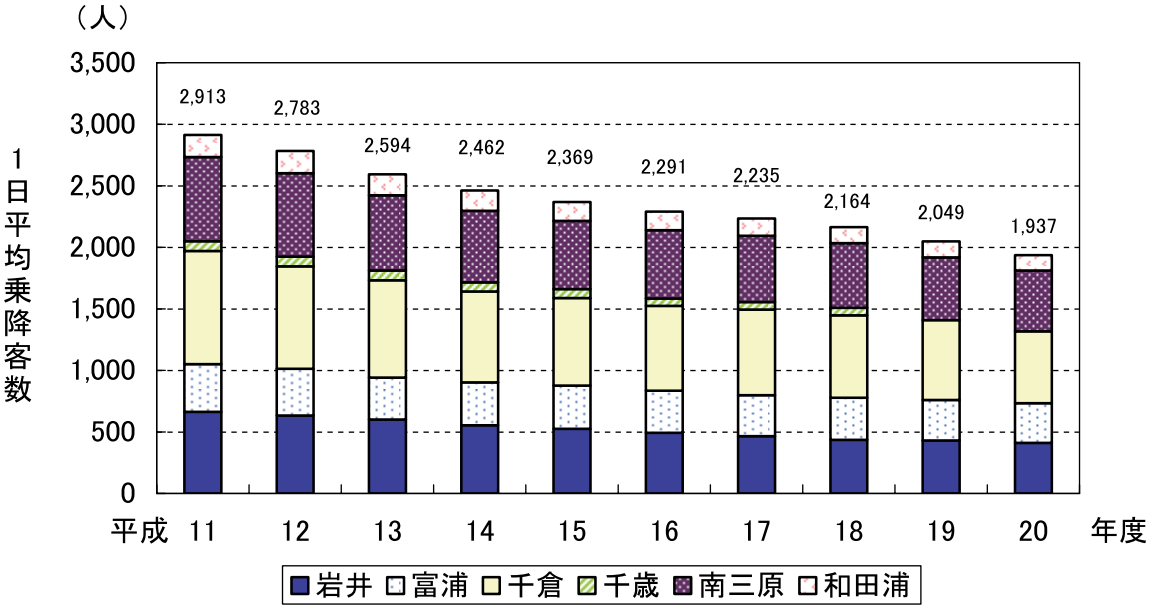

図２−７　南房総市内の駅における１日平均乗降客数（ＪＲ線）

出典：東日本旅客鉄道（株）千葉支社

注）平成19年度以降、無人駅である千歳駅の乗降客数は掲載していない。

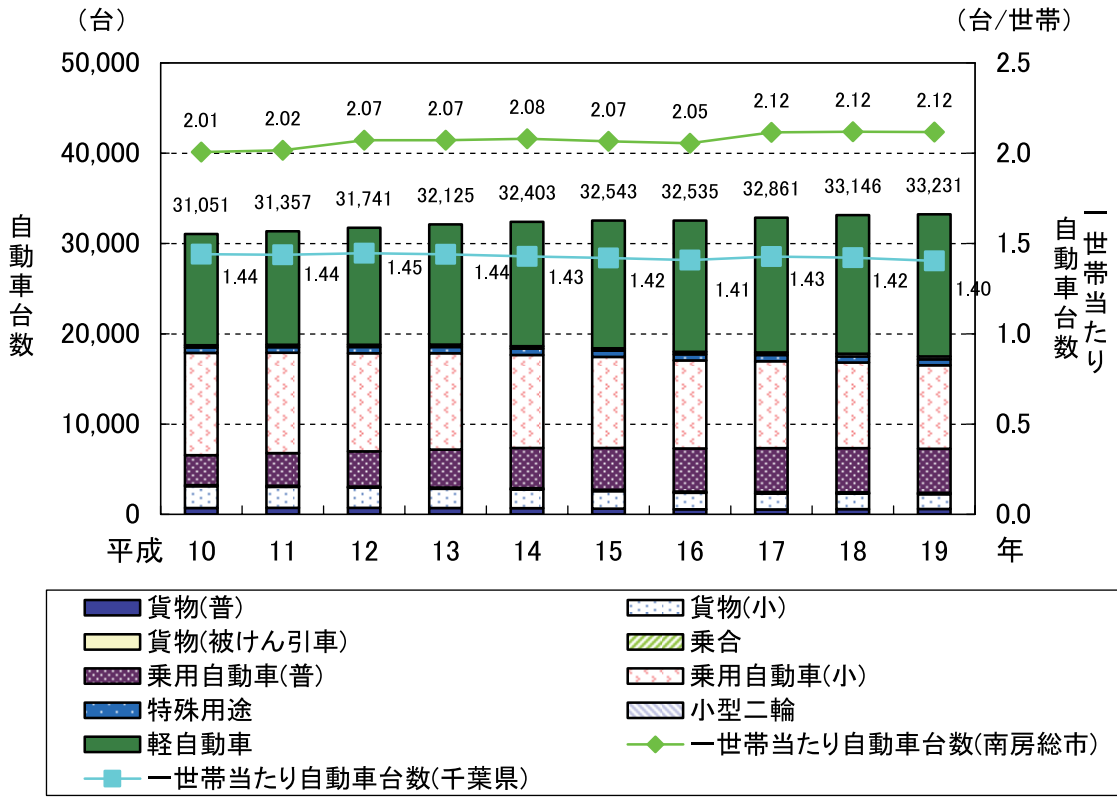

図２−８　南房総市の自動車台数（各年３月31日現在）

出典：関東運輸局千葉運輸支局、千葉県軽自動車協会

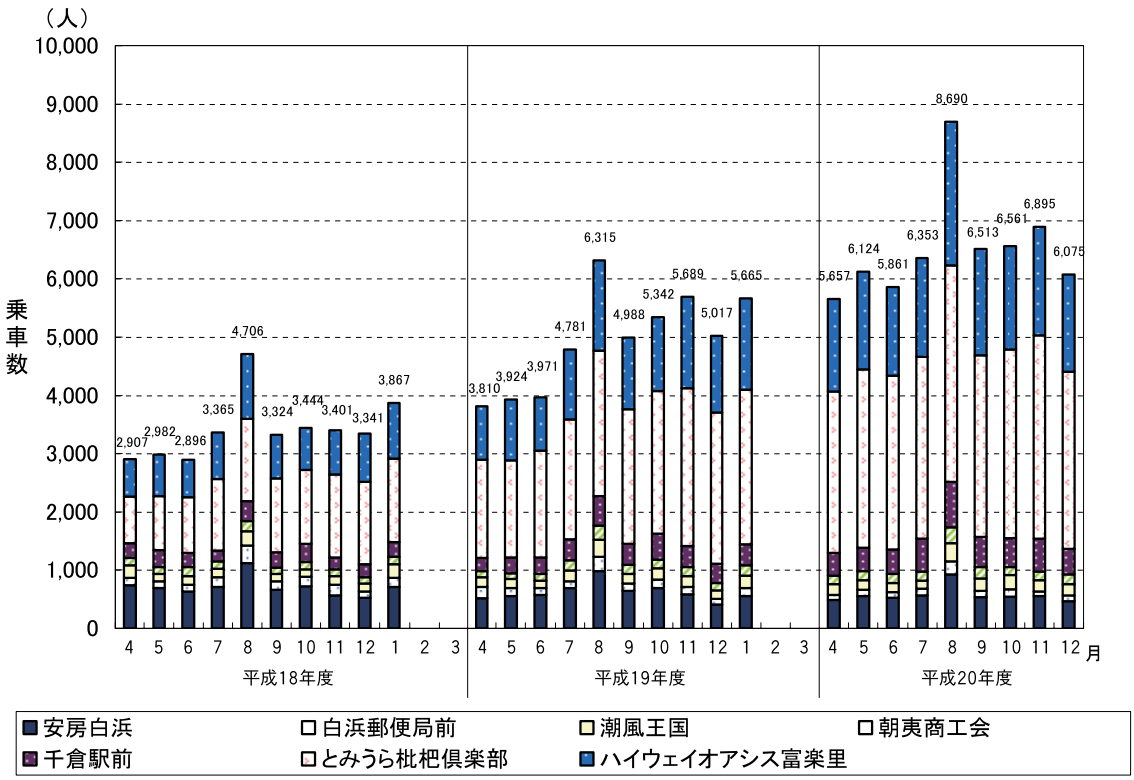

図２－９　南房総市内道の駅・バス停における月別高速バス利用者数の推移（東京行き）

出典：ジェイアールバス関東（株）資料

注）H19.2、H19.3、H20.2、H20.3はデータなし。

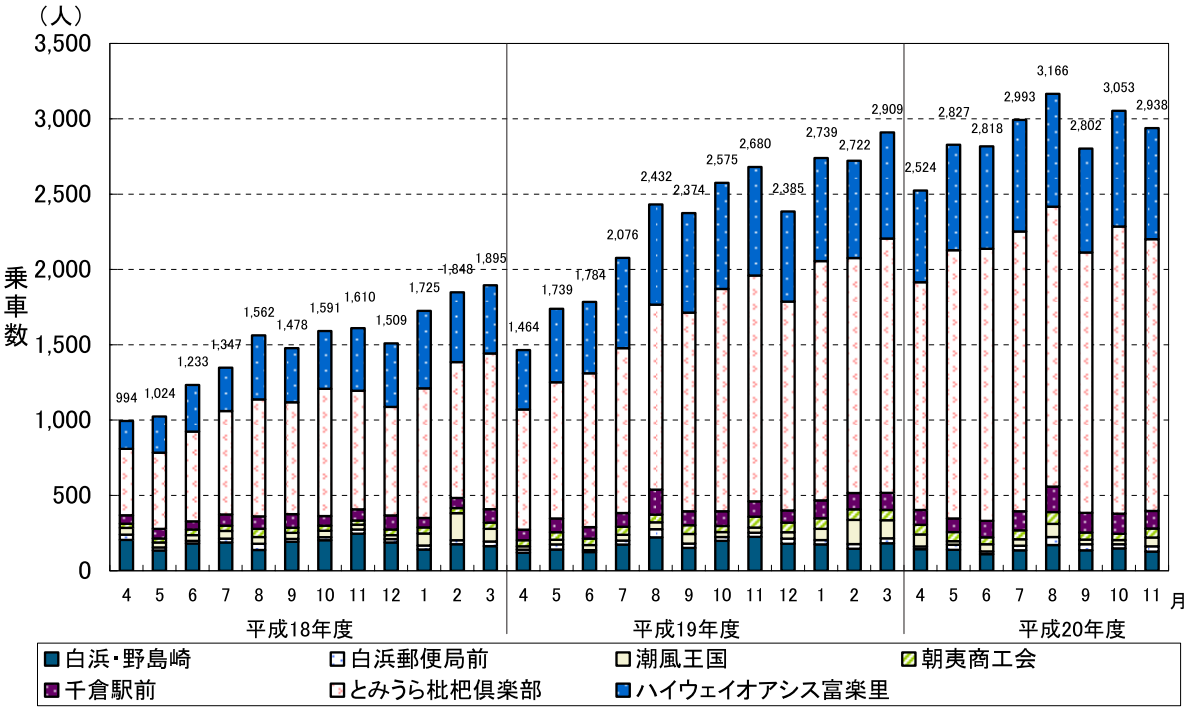

図２－10　南房総市内道の駅・バス停における月別高速バス利用者数の推移（千葉行き）

出典：京成バス（株）資料

2）地球環境について

市域全体から排出されている温室効果ガスの量を把握しておらず、これを把握することが、今後の課題の１つとなっています。

ただし、平成19年度の南房総市全体の電力使用量は約28万MWhとなっており、これを二酸化炭素排出量に換算すると約12万t-CO_2となります。

平成20年度末現在、公用車281台のうち、低公害車*を27台保有しています。

市内に気象観測所はありませんが、近隣の気象観測所（館山、鴨川）での年間日照時間は1,800時間以上で、ほぼ全国平均並みとなっています。（図２－11）。

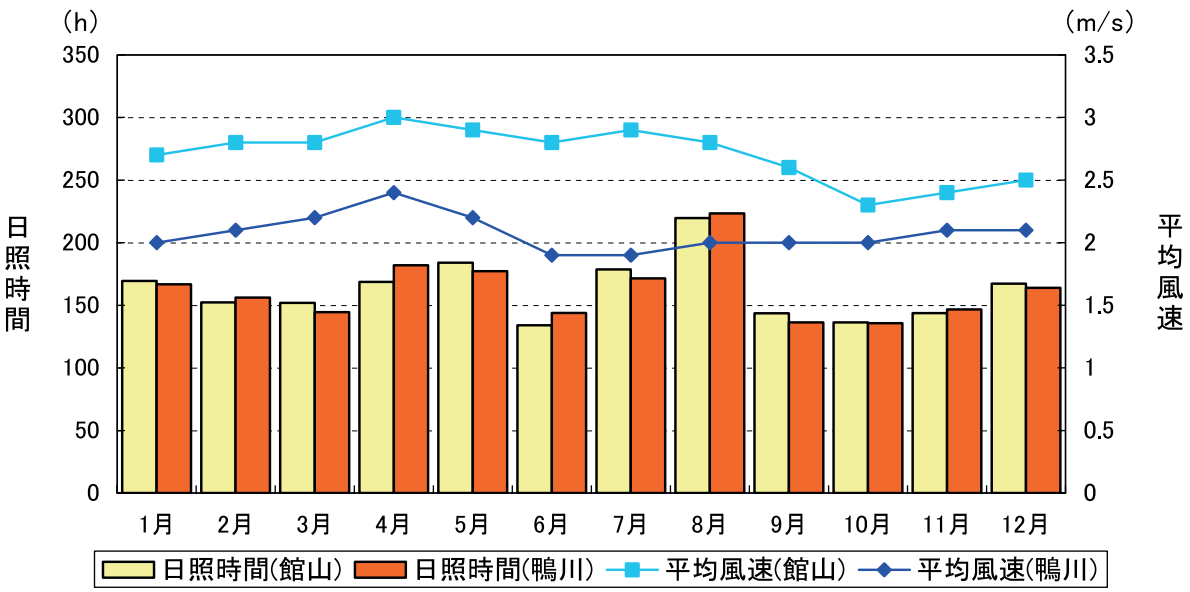

図２－11　南房総市近郊の日照時間・平均風速（館山、鴨川観測所）（平年値）

出典：気象庁

コラム　◇市の保有する低公害車*について◇

市の保有する公用車281台のうち、ハイブリッド車は１台ですが、低燃費車が26台あり、合わせて27台が低公害車*です。内訳は次のとおりです。

区　分	車　種	低公害車以外	低公害車		
			ハイブリッド	低燃費車	計
①普通貨物自動車	トラック	10	－	－	－
②普通乗合自動車	大型バス、マイクロバス	24	－	－	－
③普通乗用車	乗用車、ワゴン	16	1	1	2
④軽自動車	乗用車、バン、トラック	67	－	13	13
⑤小型貨物自動車	バン、トラック	38	－	3	3
⑥小型四輪乗用車	乗用車、ワゴン	18	－	9	9
⑦特殊自動車	塵芥収集車、消防車等	78	－	－	－
⑧特殊自動車	除雪車、ブルドーザ等	3	－	－	－
合　計		254	1	26	27

３）資源循環環境について

ごみ処理量は、平成18年度に可燃ごみ有料指定袋を導入した結果、ごみ総排出量は前年度より20%近く減少しました。平成19年度は平成18年度とほぼ同じ量となっています(図２―12)。

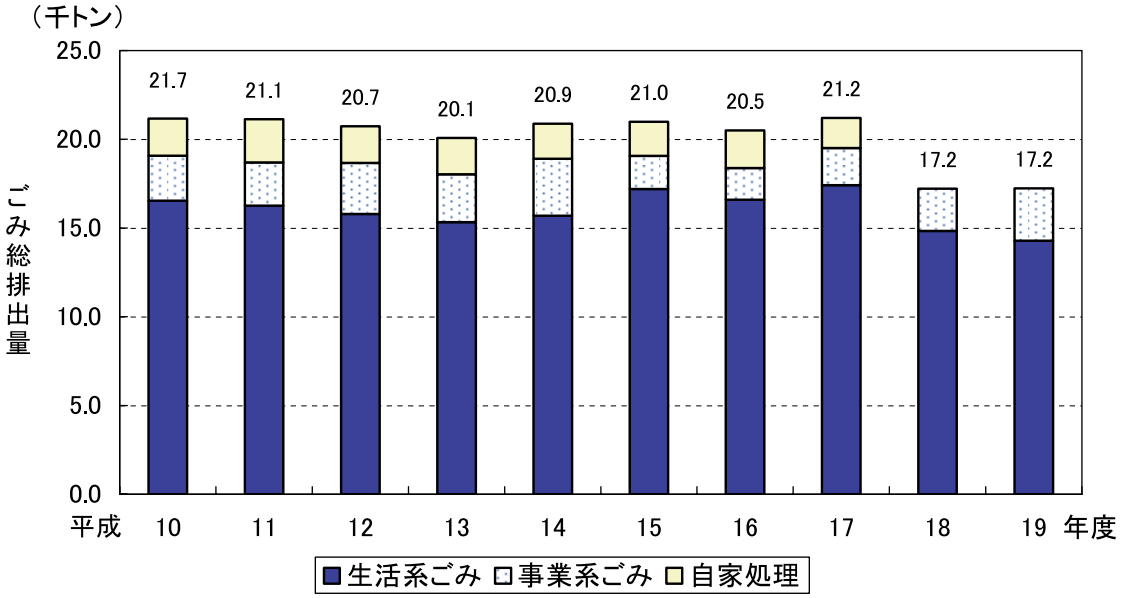

図２―12　南房総市のごみ処理実績

出典：千葉県資源循環推進課「清掃事業の現況と実績」

注）平成17年度までは、旧町村の合計値。

ごみ総排出量の削減に伴って一人一日当たりごみ排出量も少なくなりました。しかし生活系に限ると、依然として県平均よりも多くなっています（図２―13)。

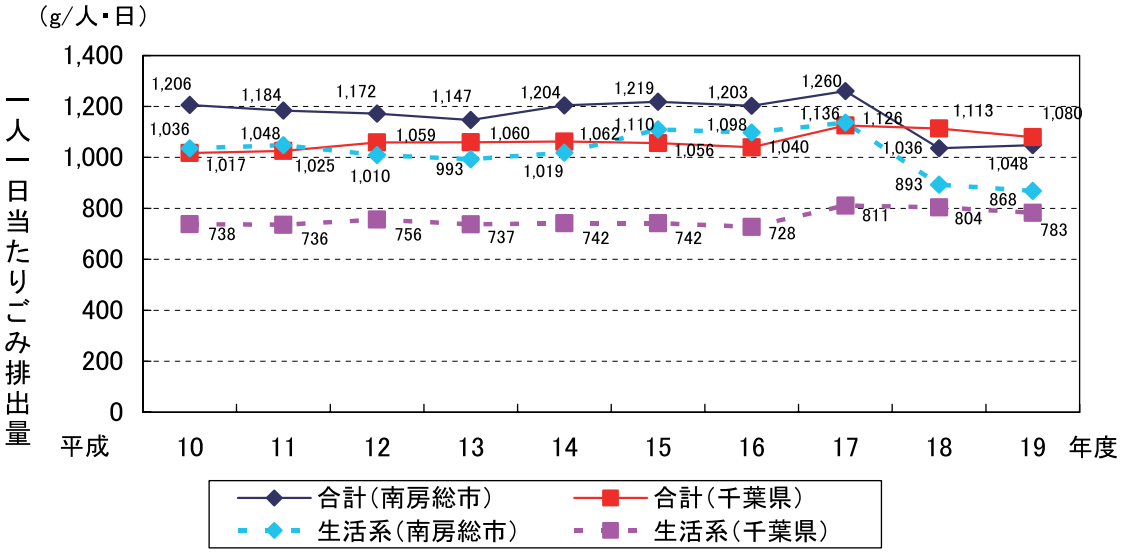

図２―13　一人一日当たりごみ排出量の推移

出典：千葉県資源循環推進課「清掃事業の現況と実績」

平成19年度のリサイクル率は18.8%で、全国平均や県平均より低くなっています（図２－14）。

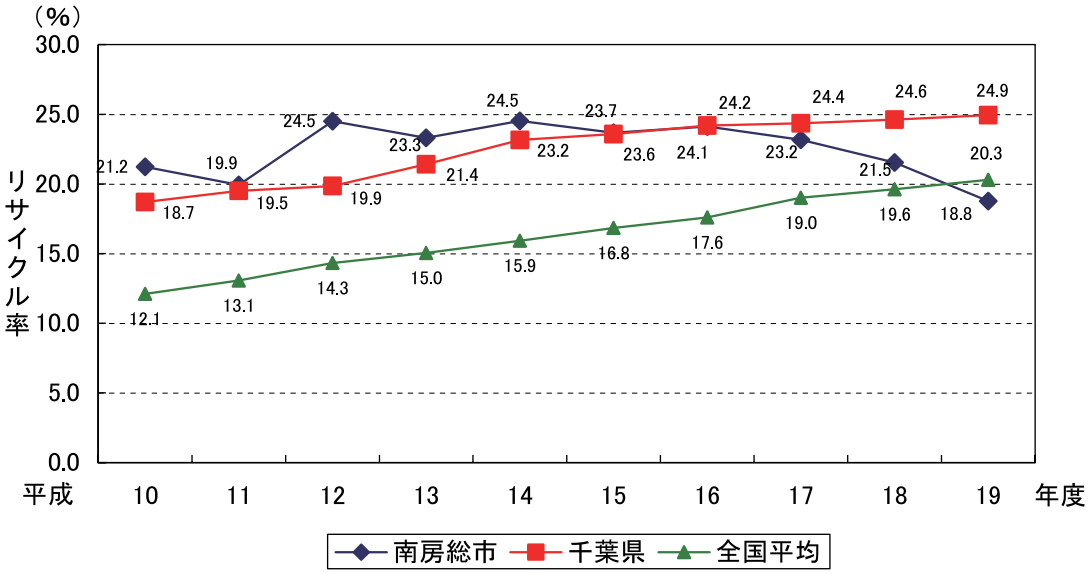

図２－14　リサイクル率の推移

出典：千葉県資源循環推進課「清掃事業の現況と実績」

一般廃棄物*の最終処分量は、近年2,000～2,300tで推移しています。

４）自然環境について

一人当たり公園面積は約2.6㎡/人で、県平均よりも小さくなっています。（参考:平成18年３月末千葉県一人当たり都市公園面積5.9㎡/人）

千葉県レッドデータブック*選定種のうち、市内では植物が36種、動物が18種確認されています。

特定外来生物*については、市内で２種（アカゲザル、キョン）確認されています。

アカゲザル

５）生活環境について

河川の水質は、平成19年度は全ての地点で健康項目の環境基準*を達成していますが、生活環境項目のうちDO*とBOD*は一部の地点で、大腸菌群数は全ての地点で環境基準*を達成できていません。

海域の水質は、平成19年度は全ての地点で生活環境項目及び健康項目の環境基準*を達成しています。

平成19年度の合併処理浄化槽*処理人口の割合は20%程度で、年々増加してきていますが、依然として単独処理浄化槽*処理人口が50%程度を占めています（図 2−15）。

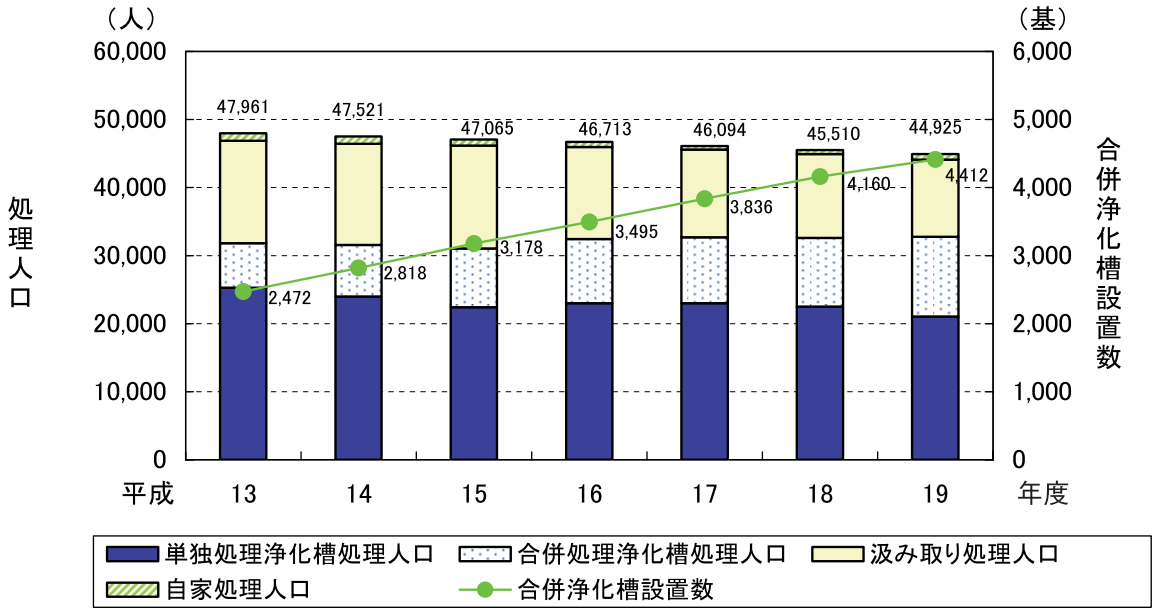

図２−15　南房総市のし尿処理人口の内訳及び合併浄化槽*設置数

出典：千葉県資源循環推進課「清掃事業の現況と実績」

６）環境保全活動について

市では市民環境大学を開講しており、平成19年度及び平成20年度のエコリーダー認定者数はそれぞれ73人、20人です。

市内には環境に関する活動を行っている市民団体があり、草刈・除草や清掃活動などを行っています。

市内各地区で海岸清掃や道路美化、ごみ拾い等の環境美化活動が行われています。

2－2　意識調査結果

地域及び地球環境に係る認識、評価、意向等を把握するために、市民及び事業者に対してアンケート調査を行いました。以下では、調査結果を整理しています。

1）環境全般について

環境に対する市民の満足度は、満足している人（「満足している」と「やや満足している」の合計）の割合が全体の約2/3に達しています（図2―16）。

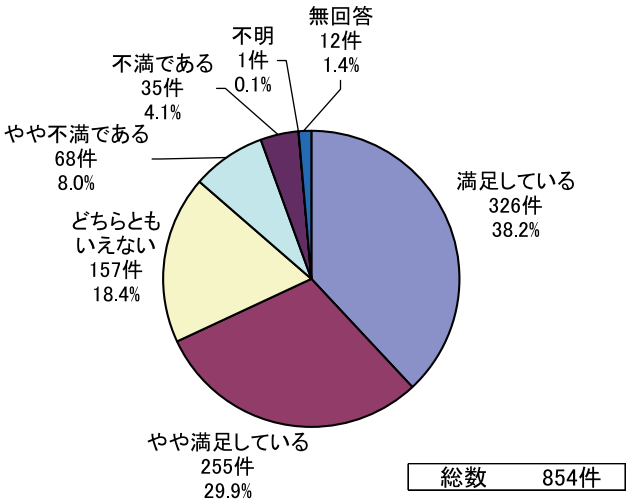

図２－16　環境全般に関しての満足度

特に重要と考えている環境項目、及び早急に取り組むべき環境項目は、いずれも「地球環境」、「資源循環環境」、「自然環境」、「生活環境」、「環境保全活動」の順となっています（図２―17）。

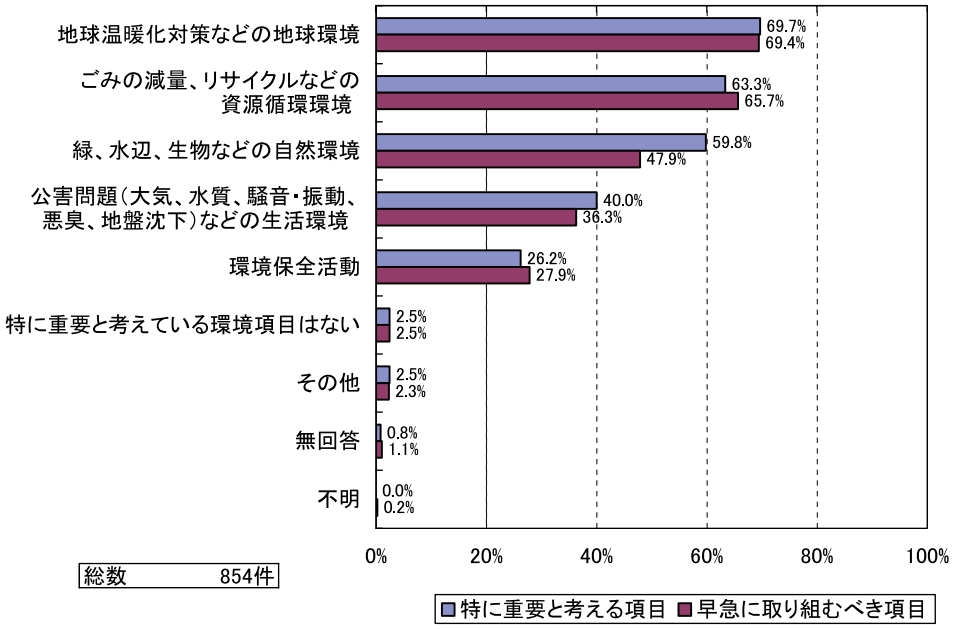

図２―17　環境全般に関する重要度・重要度

２）地球環境について

市民が特に重要と考える項目及び早急に取り組むべき項目は、いずれも「地球温暖化*の進行」が最も多く、80%以上の方が取り上げています（図２―18）。

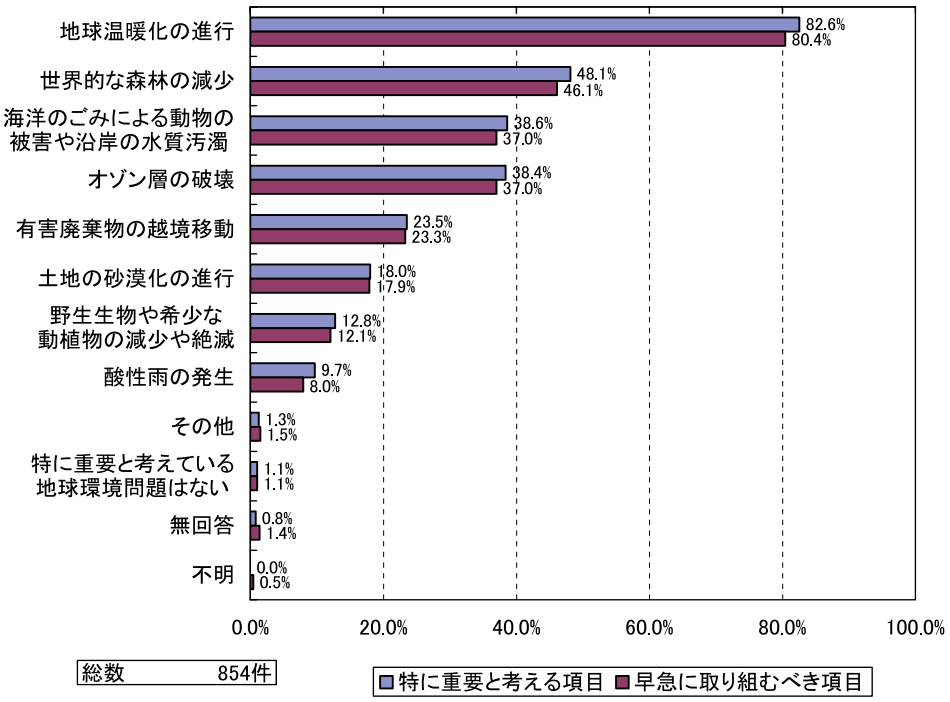

図２―18　地球環境に関する重要度・重要度

コラム　◇地球温暖化*問題について◇

近年、世界各地で地球温暖化*によるとみられる様々な影響が出ています。海水面の平均は20世紀の間に10～20cmも上昇し、異常気象による森林火災も各地で多発しています。また、大雨による洪水被害が、世界各地で増えており、干ばつによる被害も出ています。

地球温暖化*の主な原因となるのが、大気中に蓄積している二酸化炭素をはじめとした温室効果ガス*の増加とされています。様々な研究結果によれば、気温上昇幅がおよそ２℃を越えると、急激に悪影響の規模が大きくなるといわれています。

もし二酸化炭素の排出を早急に減らせたとしても、気候はすぐには安定せず、濃度の安定化に関しては、数百年という時間がかかると言われています。

だからこそ早急な対応･対策が必要なのです！

3）資源循環環境について

市民のごみの減量、リサイクルの取り組みについては、「資源ごみの分別収集や資源物回収に協力している」が最も多く、80%以上が取り組んでいます（図２―19）。

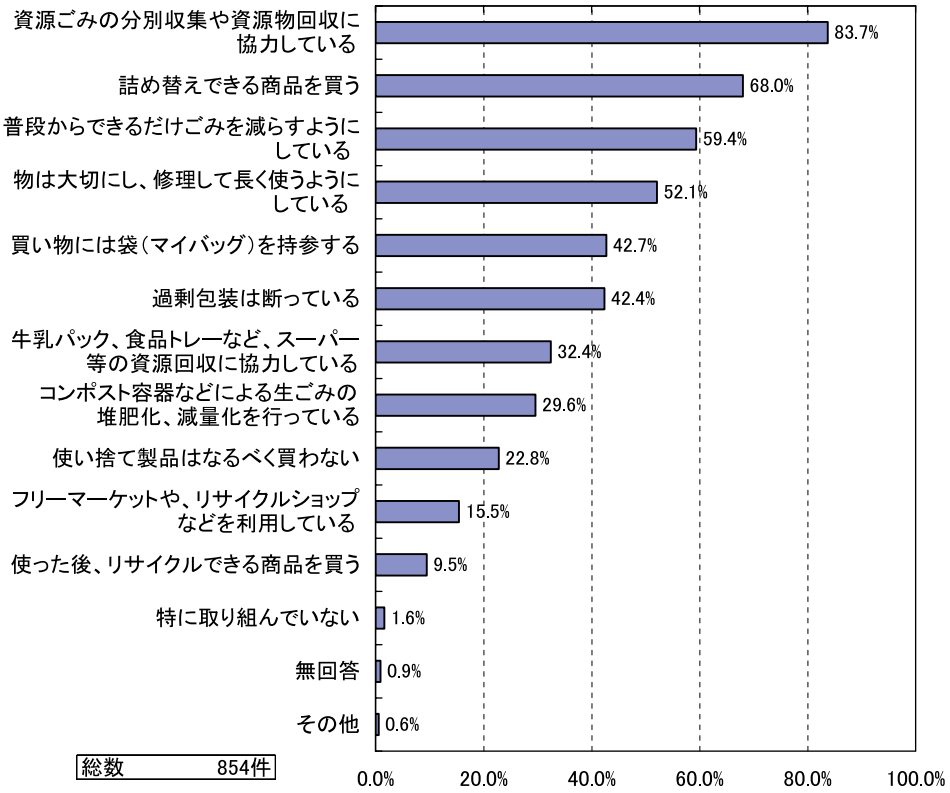

図２―19　ごみの減量、リサイクルの取り組み状況（市民）

行政によるごみの減量、リサイクルの取り組みに対する市民の満足度は、満足している人の割合は40%程度、不満と感じている人の割合は20%程度となっています（図２―20）。

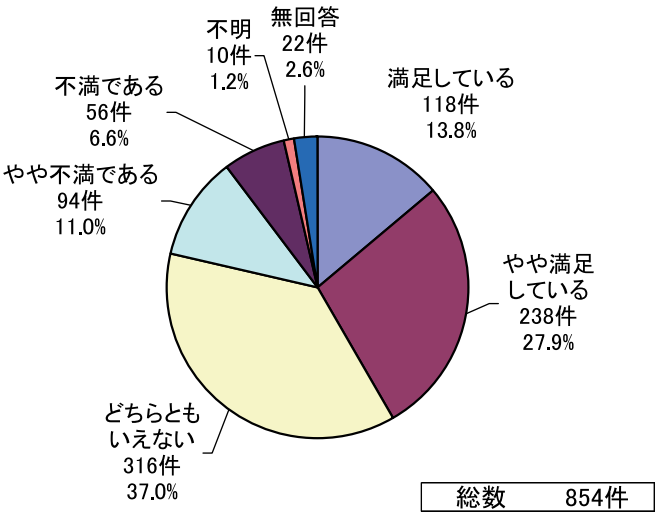

図２―20　行政によるごみの減量、リサイクルの取り組みに対する満足度

４）自然環境について

アンケート調査結果より重要度※と満足度※を算出し、これらにより評価を行いました。

自然環境では、いずれの項目も満足度、重要度とも高く、より満足度を高めるための対策が必要と判断されます（図２―21）。

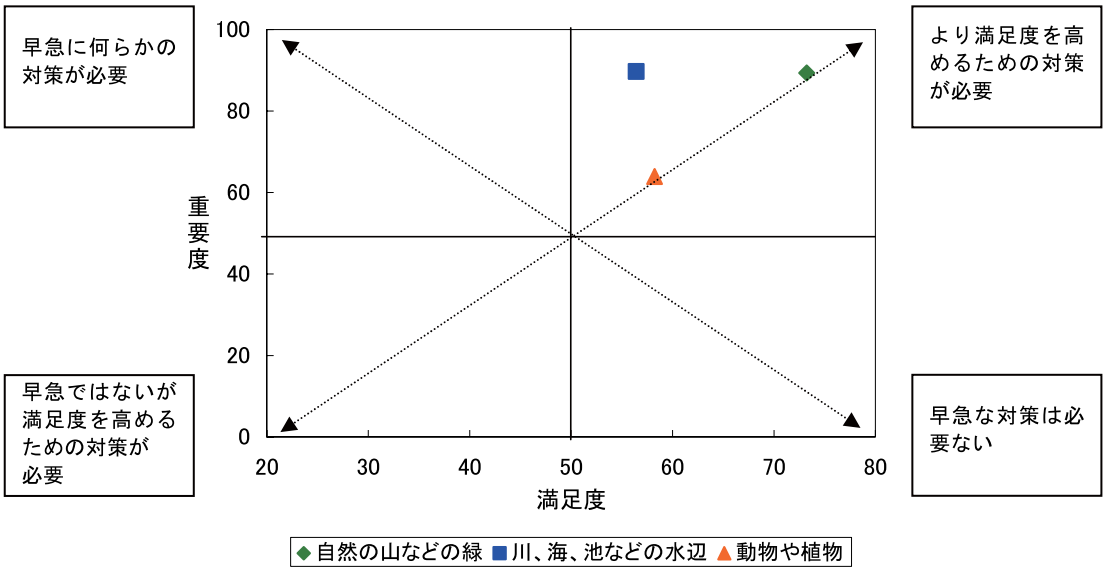

図２―21　自然環境に関する重要度・満足度

５）生活環境について

生活環境では、いずれの項目も満足度は高くなっていますが、「良好な水環境の保全」、「良好な大気環境の確保」については重要度も高く、より満足度を高めるための対策が必要と判断されます（図２―22）。

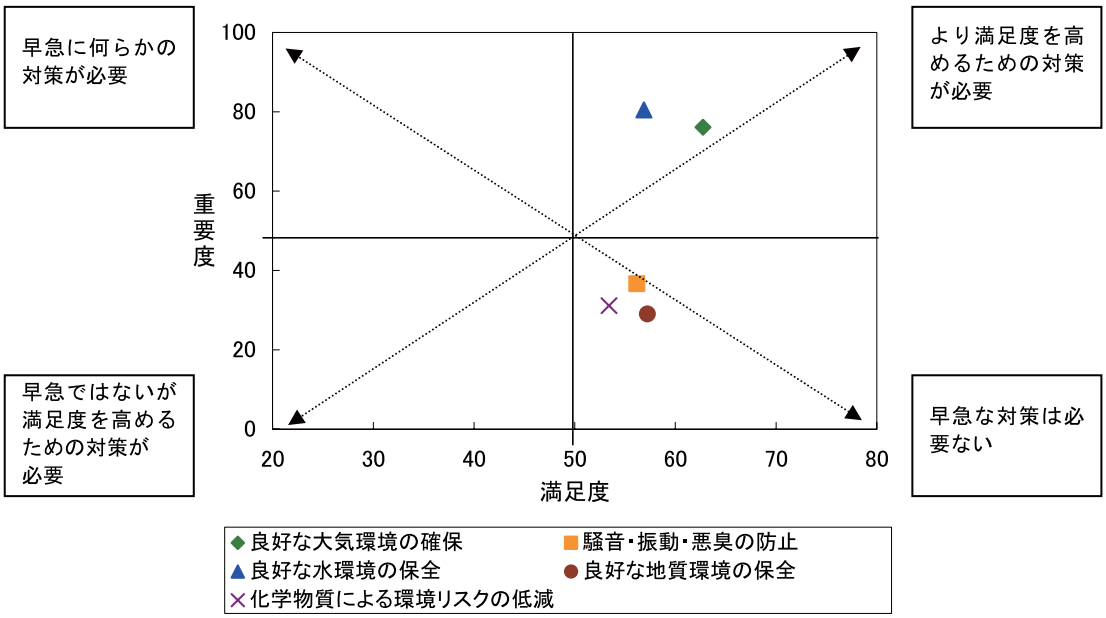

図２―22　生活環境に関する重要度・満足度

※重要度：重要性に関する質問に対する回答数の割合
※満足度：満足度に対する回答について、「満足」を90、「やや満足」を70、「どちらともいえない」を50、「やや不満」を30、「不満」を10とし、加重平均した値

６）環境保全活動について

市民の環境保全活動への参加状況を見ると、「既に参加している」及び「機会があれば参加したいが、まだ参加したことはない」を合わせた、参加している又は参加したい人の割合は60％程度となっています（図２―23）。

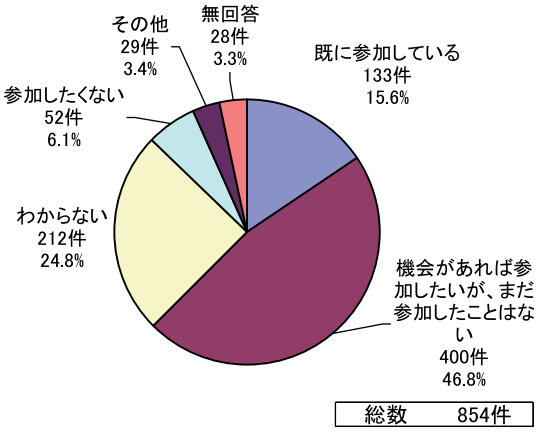

図２―23　環境保全活動へのボランティアの参加状況

「機会があれば参加したいが、まだ参加したことはない」人の理由は、「活動内容等に関する情報の入手ができない」、「仕事・家事等が忙しく時間がない」の２つが50％を超えています（図２―24）。

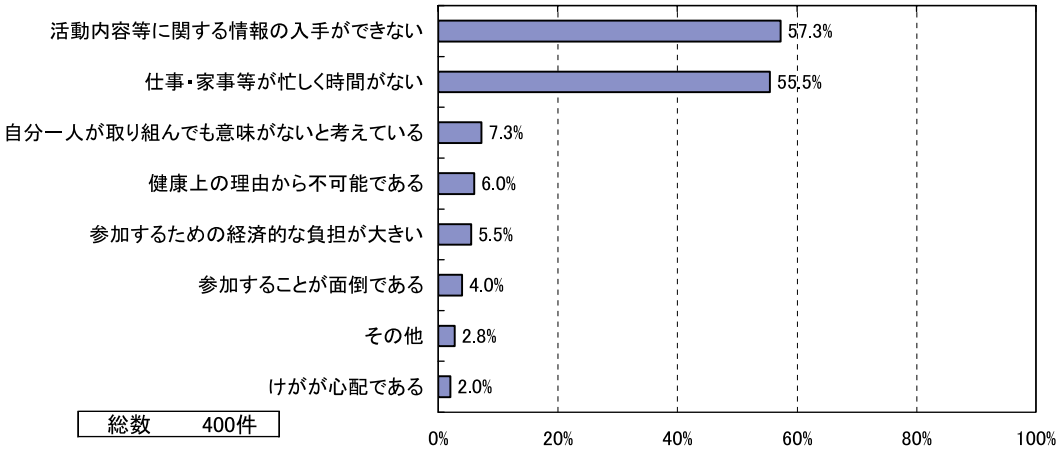

図２―24 「機会があれば参加したいが、まだ参加したことはない」と回答した人の理由

２－３　環境基礎調査による現状と課題等

南房総市の環境要素等の現状、市民意識、課題などについて整理すると22～23頁の表のとおりとなります。環境基礎調査を行った結果として、今後の環境施策等を推進する上で留意すべき主な点を整理すると、次のとおりとなります。

１）地球環境

●温室効果ガス*排出量は、市では把握していませんが、意識調査では地球温暖化*の進行に対しての取り組みが重要との回答が多く、市内の温室効果ガス*排出量の把握、削減が課題として挙げられます。

●年間日照時間は1,800h以上であり、また月別の変動も少ないことから、太陽光発電の導入検討や、普及啓発が考えられます。

●低公害車*の導入率は、市の公用車、事業所とも10％程度と低く、今後の導入促進や普及啓発が必要と考えられます。

２）資源循環環境

●平成19年度の一人一日当たりごみ排出量は県平均よりも少なくなっていますが、生活系については依然として県平均よりも多くなっており、ごみ排出量のさらなる削減が必要と考えられます。

●リサイクル率が全国平均や県平均よりも低く、またリサイクルに関する詳しい情報がないとの意見があることから、市民にリサイクルに関する情報を提供し、リサイクル率を向上していくことが必要です。

●平成19年度の一般廃棄物不法投棄件数は123件、撤去量15.8ｔであり、不法投棄の防止、パトロール等の強化が必要と考えられます。

３）自然環境

●公園面積は、県平均の5.9㎡/人（平成18年３月末、都市公園面積）に比べ、約2.6㎡/人（公園面積）と小さくなっています。

●意識調査では、農地（耕作地）の管理が不十分といった意見が多く、農地、休耕地の有効活用を検討していくことが必要と考えられます。

●意識調査では、川がごみ等で汚れているなどの意見があり、水質面も含めて河川環境の改善を図っていくことが必要と考えられます。

●意識調査では、有害鳥獣による被害に関する内容が多く、有害鳥獣の適正管理・駆除等が課題として挙げられます。

４）生活環境

●意識調査では、野焼きに関する不満があり、野焼き禁止の徹底を啓発していくことが必要と考えられます。

●河川水質について、健康項目は環境基準*を達成していますが、生活環境項目の中には環境基準*を達成していない項目もあり、生活排水対策の推進など、水質の改善が必要と考えられます。

●意識調査でも、生活排水による水の汚れに加え、家畜ふん尿による水の汚れや水道水がおいしくないとの意見があり、生活排水対策に加え、畜産排水等の事業系排水も含めた水質改善対策が必要と考えられます。

●合併処理浄化槽*処理人口は増加していますが、普及率は20%程度であり、今後のさらなる普及促進が必要と考えられます。

●意識調査では、夜間のバイク騒音、高速道路開通による車の騒音、家畜排せつ物による悪臭、農薬や除草剤の使用による土壌汚染などの意見もあり、これらの生活環境への対応も必要と考えられます。

5）環境保全活動

●意識調査では、環境に関するさまざまな情報の提供、活用が重要との回答が多くなっており、環境学習の機会を増やすなど、環境問題意識の啓発活動をさらに推進していくことが必要と考えられます。

●平成19年度より市民環境大学を開講してエコリーダーを認定しており、このような取り組みを継続していくことが必要と考えられます。

表２－２　基礎調査結果、意識調査結果の概要(1)

区分 1	区分 2	区分 3	現状 既存資料調査結果の概要		現状 アンケート調査結果の概要		課題等
地球環境	地球温暖化	温室効果ガス排出量	△	全市の温室効果ガス排出量を把握できていない	○	地球温暖化対策などが重要との回答が70%	●地球温暖化対策実行計画の策定 ●温室効果ガス排出量の削減
	地球環境問題	新エネルギー	△	新エネルギービジョンを策定していない（旧千倉町では策定）	△	自然エネルギーを利用している事業所は7%、導入を検討中が51%	●新エネルギービジョンの策定 ●新エネルギー等の導入促進、普及啓発
			○	年間日照時間は1,800h以上			●太陽光発電の導入検討
		低公害車	△	市の公用車うち、低公害車の導入率は10%程度	△	事業所での低公害車導入率は10%、検討中が61%	●低公害車の導入促進、普及啓発
資源循環環境	ごみ減量	取り組み全般			△	行政のごみ減量・リサイクルへの取り組みに満足している人の割合が42%	●行政による取り組みの周知、情報の提供
		ごみ排出量	△	1人1日当たりごみ排出量は県平均よりも少ないが、生活系は依然として県よりも多い（H19）	△	不満の理由として、分別種類が少ない、分別方法がわからないなどの意見がある	●ごみ排出量のさらなる削減
		最終処分量	△	最終処分量は毎年2,000～2,300tで推移			●最終処分量の削減
		不法投棄	×	一般廃棄物不法投棄件数123件、撤去量15.8ｔ（H19）			●不法投棄の防止
	資源化	リサイクル	×	リサイクル率は全国平均や県平均よりも低い（H19）	×	不満の理由として、リサイクルについての詳しい情報がないとの意見がある	●リサイクル率の向上 ●リサイクルに関する情報提供
	バイオマス	廃食用油			△	廃食用油を再利用している、残らないようにしている人の割合が13%	●廃食用油の再利用の促進
自然環境	緑	緑全般			○	身の回りの緑に満足している人の割合が78%	
		公園面積	△	1人当たり公園面積は約2.6㎡/人			●1人当たり公園面積の拡大
		里山	△	里山認定団体は、市認定、県認定ともに2件ずつ			●里山認定団体数の拡大
		農地			×	不満の理由として、農地（耕作地）の管理が不十分との意見がある	●農地、休耕地の有効活用
	水辺	水辺全般			△	身の回りの水辺に満足している人の割合が50%	●水辺環境の改善
		海			○	満足の理由として、海の景色が美しいとの意見がある	●海岸環境の維持・保全
		川			×	不満の理由として、川の護岸が画一的、ごみ等で汚れているとの意見がある	●河川環境の改善・管理
	生物	生物全般			△	身の回りに生物のいる環境に満足している人の割合が52%	●生物生息環境の改善
		多様性	△	市内で確認されている希少種は植物36種、動物18種	×	不満の理由として、動植物の種類と数が減少しているとの意見がある	●生物多様性の確保 ●希少生物の保護
		特定外来生物	△	市内で確認されている特定外来生物は2種			●特定外来生物の排除
		有害鳥獣			×	不満の理由で、有害鳥獣による被害(農作物を荒らされる)に困るとの意見が非常に多い	●有害鳥類の適正管理、駆除等

注)○：良好な内容、△：どちらともいえない内容、×：改善すべき内容

表２－３　基礎調査結果、意識調査結果の概要(2)

区分 1	区分 2	区分 3	現状 既存資料調査結果の概要		現状 アンケート調査結果の概要		課題等
生活環境	大気	全般	△	市内に調査地点がなく、大気汚染状況を把握できない	○	大気環境に満足している人の割合が60%	●市内で大気環境調査の実施等・現状の把握
		野焼き			×	不満の理由として、野焼きによる煙の発生等の意見がある	●野焼き禁止の徹底
	水環境	全般			△	水環境に満足している人の割合が50%	
		河川水質	×	全ての調査地点で大腸菌群数の環境基準を満足していない	×	不満の理由として、家畜ふん尿による水質の汚れ、水道水がまずい、などの意見がある	●汚染源の特定 ●水質の改善
			△	三原橋でBOD、小向浄水場取水口でDOの環境基準を満足していない			
		海域水質	○	生活環境項目、健康項目（調査分）とも、全ての地点で基準を満足している			●良好な水質の維持
		生活排水	△	合併処理浄化槽人口は増加しているが、普及率は20%程度	×	不満の理由として、下水道の不備、生活排水等による汚れの意見がある	●合併処理浄化槽整備の促進
	騒音・振動・悪臭	全般	△	市内に調査地点がなく、騒音・振動・悪臭の状況を把握できない	△	騒音・振動・悪臭の防止に対して満足している人の割合が51%	●調査実施体制等の整備 ●現状の把握
		騒音	△	平成18年度の苦情件数は騒音、振動、悪臭が各1件ずつ	×	不満の理由として、夜間のバイク騒音、高速道路開通による車の騒音がある	●騒音対策の推進
		悪臭			×	不満の理由として、家畜排せつ物についての意見がある	●家畜排せつ物の適正管理の指導等
	土壌汚染・地盤沈下	全般	△	市内に調査地点がなく、土壌汚染・地盤沈下について把握できない	△	満足しているの人の割合が44%	●調査実施体制の整備 ●現状の把握
		公害苦情等	○	平成18年度、土壌汚染・地盤沈下に関する苦情はなかった			●苦情件数0件の継続
		情報提供			×	不満の理由として、地すべりや土砂災害などの意見がある	●十分な情報の提供
	化学物質	全般			△	満足しているの人の割合が35%	
		届出排出・移動量			×	不満の理由として、農薬、除草剤の使用による汚染の意見がある	●農薬、除草剤の適正使用の周知等
環境保全活動	環境学習	市民環境大学	○	平成19年度より、市民環境大学を開講し、エコリーダーを認定している			●継続的な開講
		情報提供			○	環境に関するさまざまな情報の提供、活用が重要との回答率が61%	●広報やチラシ等による環境情報の提供の継続 ●様々な媒体を通じた情報の提供
					○	環境に関する情報等の取得手段は市の広報やチラシが76%	
		環境教育・学習			○	環境教育・学習の推進が重要との回答率が64%	●小中学校を中心とした環境教育・学習の推進 ●生涯学習等を通じた市民への環境教育の実施
					○	環境教育は、小中学校の授業の中で取り組んでいくべきとの回答率が76%	
	環境保全活動	市民公益活動団体	○	環境に関する活動を行っている市民公益活動団体がある			●活動団体への支援等
		参加・協働			×	参加していない人の理由として、「活動内容等に関する情報の入手ができない」が最も多い	●環境保全活動に関する情報の提供
		環境美化活動	○	毎年各地区で一斉清掃等の活動を行っている			●継続的な活動の推進、拡大

注)○：良好な内容、△：どちらともいえない内容、×：改善すべき内容目に多い。

房州うちわ

緑のカーテン

バイオディーゼル燃料（BDF）自動車
（公用車）

ごみ収集カレンダー
（富浦地区）

梅（石堂寺）

ハマヒルガオ（岩井海岸）

和田浦海水浴場

岡本川

環境学習パンフレット（児童向け）

市民環境大学の講義風景